

# 信仰の枠を超えケアを



「臨床宗教師」の研修について打ち合わせする鈴木教授  
＝仙台市青葉区の東北大学大学院文学研究科

## 講座開設 心構え説く

### これから

大震災を生きる

学外の「教え子」は 2 修生だ。年間で 57 人になった。東北大学院文学研究科が 2012 年 4 月に開設した「実践宗教学」を学ぶ。大震災を失った家族の悲嘆を添ったケアの習得を目指す。講座で主催する研修の

災地で、名も知らぬ僧侶に説教を求めた住民の姿を見た。宗派なんて関係ない。甲斐を通して喪失感を埋め、悲しみを癒やす。魂の救済というケアの習得を目指している。

開設を学内に働きかけた。目標は「ケア」ではなく、宗派や教義を超えて人々の心をケアする専門職「臨床宗教師」の育成だ。

「臨床宗教師」の育成だ。欧米の「チャプレン」をイメージした。病院などで臨終の人や家族を向き合う宗教学。日本ではなじみが薄く、その存在も少ない。

「われわれの試みはいわば宗教の復権。人を串刺しでなく、死にゆく人、傷された生者どいかに向きあうかが宗教に問われている」。

研修生が中心となり、ことし 3 月には臨床宗教師会が設立された。4 月、京都市の崇光大で養成コースが始まるなど、全

国に追随の動きが広がっている。当初 3 年間を定めた研修は、来年度以降の研修が検討されている。「高齢化社会で活躍の機会、ニーズは広がるはずだ」。緩和ケア病棟や介護施設に臨床宗教師が活躍、人々と向き合う機会を増やそう。

### 専門職育成

東日本大震災の発生から間もない 11 年 5 月、宗教の枠を超えて宮城県内の宗教学者がつづつたボランティア組織「心の相談室」の事務局長に就いた。被災者の痛みを愛げ止めたい。そんな僧侶らの申し入れを、二つ返事で引き受けた。非業の死にあふれた被

第 19 部 研究者の思い

④

臨床宗教師

震災差の講座開設に道筋を付けた。僧侶は「心の博れに倅い、近年は葬儀を行わず火葬だけする」「直葬」を選ぶ人もある。

「われわれの試みはいわば宗教の復権。人を串刺しでなく、死にゆく人、傷された生者どいかに向きあうかが宗教に問われている」。

研修生が中心となり、ことし 3 月には臨床宗教師会が設立された。4 月、京都市の崇光大で養成コースが始まるなど、全

国に追随の動きが広がっている。当初 3 年間を定めた研修は、来年度以降の研修が検討されている。「高齢化社会で活躍の機会、ニーズは広がるはずだ」。緩和ケア病棟や介護施設に臨床宗教師が活躍、人々と向き合う機会を増やそう。